

単元の要点

1 歴史的仮名遣いの原則(↓の後が現代仮名遣いの表記)

- ① 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」↓「わ・い・う・え・お」
 ② る・ゑ・を(助詞以外) ↓い・え・お ③ ぢ・づ ↓じ・ず
 ④ くわ・ぐわ ↓か・が
 ⑤ あう(au)・いう(iu)・えう(eu) ↓おう(ô)・ゆう(yû)・よう(yô)

確認問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

― 茶会を取り仕切る岸玄知はある日、郊外の梅園にて、花盛りの梅の木を買った。―

翌日、酒魚を以て樹下に来たり慰む。農夫曰く、根の損せざるやうに掘

りうがち、明日持ちまゐるべしと云ふ。玄知の云ふ、いな左様に非ず。い

つまでも爰に置くべし。さあらは実、熟さば如何にすべしと問ふ。実は用

なし、只花のみ望む所にして、吾物にして見ざればおもしろからずとぞ。

私の物にして見なければおもしろくない

(司馬江漢「春波楼筆記」より)

2 省略

古文では、いろいろな言葉が省略されているので、補って考える必要がある。主なものは次の通り。

① 主語を表す「が」「は」などの助詞の省略。主語そのものが省略されることもある。

② 目的語を表す助詞の「を」「や」「こと」「もの」などの名詞の省略。

(1) ―線①「やうに」、―線②「まゐる」を現代仮名遣いに直して平仮名で書きなさい。

① [] [] []
② [] [] []

ポイント 歴史的仮名遣いの原則を理解しよう。

①は、あう(au) ↓おう(ô)となることに注意する。②は、「る」↓「い」の原則に従う。

(2) ―線③「問ふ」とあるが、主語に当たる言葉は何か。古文中から書き抜きなさい。

[] [] []

ポイント 省略されている主語を捉えよう。

主語が省略されている場合は、前後の文脈から補って考える。ここでは、玄知と農夫が交互に話していることを押さえる。

2 次の古文と現代語訳を読んで、後の問いに答えなさい。

九月ばかり、夜一夜降りあかしたる雨の、今朝はやみて、朝日いとけさやかにさし出でたるに、前栽の露こぼるばかりぬれかかりたるも、いとをか。透垣の羅文、軒の上に、かいたる蜘蛛の巣のこぼれ残りたるに、雨のかかりたるが、白き玉をつらぬきたるやうなるこそ、いみじうあはれに

すこし日たけぬれば、萩などのいとおもげなるに、露の落つるに枝のうち動きて、人も手ふれぬに、ふとかみさまへあがりたるも、いみじうをかし、といひたることどもの、人の心にはつゆをかしからじとおもふこそ、また

〔枕草子〕より

〔註〕*透垣＝竹や板などで間を透かして作った垣。

*羅文＝透垣などの上に、細い竹をひし形に組んで飾りにしたものの。

〈現代語訳〉

九月のころ、一晚中降り通した雨が、今朝はやんで、朝日がぱつとあざやかにさしはじめたときに、庭の植え込みの露がこぼれ落ちるほどにぬれているのも、とても趣がある。透垣の羅文や、軒の上に、張りめぐらしてある蜘蛛の巣が破れ残っているところに、雨が降りかかっているのが、白い玉を貫き通してあるようなのは、たいへんしみじみとした感じがして趣がある。

少し日が高くさしのぼってしまうと、萩などがひどく重たそうなのに、露が落ちると枝が動いて、人も手を触れないのに、さつと上の方へはねあがったのも、とても趣がある、と私が言っているいろいろなことが、ほかの人の心には少しもおもしろくあるまいと思うのが、またおもしろい。

(1) には同じ言葉が入る。当てはまる言葉として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア をかしかり
- イ をかし
- ウ をかしかる
- エ をかしけれ

ポイント 係り結びの法則を理解しよう。

係助詞「ぞ」「なむ」「や」「か」「こそ」を文中で用いる場合、文末の活用語を決まった活用形で結ぶ表現方法。その対応関係は、「ぞ・なむ・や・か」↓連体形、「こそ」↓已然形、となる。

(2) この文章について説明したものととして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者は、他人の気づかない自然の一場面を美しく描いているが、誰も評価してくれないことに不満を覚えている。
- イ 筆者は、秋のすがすがしい庭の様子を描写するにとどまらず、自ら植物に触れてその感触を確かめようとしている。
- ウ 筆者は、自然の幻想的な姿を巧みに表現できたことに満足覚え、人よりも鋭敏な感受性があると自信を深めている。
- エ 筆者は、秋の雨上がりの情景に趣を感じるだけでなく、自分の感じ方が人と異なる点にもおもしろみを感じている。

ポイント 古文の主題を捉えよう。

あらすじをつかんで、筆者の言いたいことを捉える。
あらすじ：…筆者は九月の雨上がりの朝、庭の情景に趣を感じている。
筆者の思い：…前半の自然の美しさを趣深く思う気持ちと、後半の「とても趣がある、と……おもしろい」と述べる気持ちに着目する。

練習問題

① 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

* あづま路の道のはてよりも、猶奥つかたに生ひ出でたる人、いか許かはあや(成長した)
(田舎)

しかりけむを、いかにおもひはじめける事にか、世中に物語といふ物のあんな(あるそとだが)びていたらうに

るを、いかで見ばやとおもひつつ、つれづれなるひるま、よひぬなどに、姉、(宵の間を過すこと)
(それを)(どうにかして見たいものだ)

継母などやうの人びとの、その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど、とこ(さまは)

ろどころかたるをきくに、いとどゆかしさまされど、わがおもふままに、そろ(見たい、知りたいという気持ち)

にいかでかおぼえかたらむ。いみじく心もとなきままに、等身(高さが人間の身長と等しく)に薬師仏をつく

りて、手あらひなどして、人まにみそかに入りつつ、「京にとくあげ給て、物語(人が見えていないときに)

のおほく候なる、あるかぎり見せ給へ」と、身をすてて額をつき、いのり申す(心不亂に)

ほどに、十三になる年、のぼらむとて、九月三日かどでして、いまたちといふ(旅立ちに先立ち、吉日を選んで近くへ居を移し)

所にうつる。

〔更級日記〕より

註*あづま路の道のはては常陸の国、今の茨城県のあたり。

*猶奥つかたはもつと奥の上総の国(今の千葉県中部)。

*薬師仏は薬師如来。

(1) 線①「生ひ出でたる人」とあるが、これは誰のことか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
 ア 父 イ 継母 ウ 筆者 エ 姉たち

(2) 線②「あるやう」を現代仮名遣いに直して平仮名で書きなさい。

(3) 線③「いみじく心もとなきままに」について、次の各問いに答えなさい。

① 「心もとなき」の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
 ア 不安な イ じれったい

ウ 腹立たしい エ ぼんやりした

② その理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 姉たちはなかなか物語の話をしてくれないから。
 イ 姉たちの話では物語の筋がきちんとわからないから。
 ウ 勉強していないので自分では物語が読めないから。
 エ なかなか田舎から都に出ていくことができないから。

(4) 線④「人まにみそかに入りつつ」とあるが、この主語として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 継母 イ 姉たち ウ 父 エ 筆者

(5) 線⑤「いのり申す」とあるが、どんなことを祈ったのか。次の文の□□に当てはまる言葉を、二十字以内で書きなさい。

物語のたくさんあるという京に早く上らせ、□□ということ。

2 次の古文と現代語訳を読んで、後の問いに答えなさい。

*須賀直見がいひしは、広く大きな書をよむは、長き旅路をゆくがごとし。

① おもしろからぬ所もおほかるをへゆき経行ては、又おもしろくめさむるこちする浦

山やまにもいたる也、又あしつよき人は、はやく、よわきはゆくことおそきも、よ

く似たり、とぞいひける、をかかしきたとへなりかし。

〔玉勝間〕より

② *須賀直見とせがらひりなが本居宣長の門人。 *浦山うらやま海と山。

〈現代語訳〉

須賀直見が言うには、内容が豊かで量の多い書物を読むのは、長い旅路を行うようなものである。おもしろくないところも多いけれど、そこを通り過ぎたら、またおもしろくて目が覚めるような気持ちがある、海や山にも至るのである。また、足が丈夫な人は速く歩すが、足の弱い人は進んでいくのが遅いのもよく似ている、と言った。おもしろいたとえだよ。

(1) 須賀直見が言った言葉の、初めと終わりの五字を古文中から書き抜きなさい。

□□□□□

□□□□□

(2) —線①「おもしろからぬ所」と対照的な場所を表す言葉を、古文中から二字で書き抜きなさい。

□□□□□

(3) —線②「あしつよき人は、……おそき」について、次の各問いに答えなさい。

① 「よわき」の後に省略されている言葉を、古文中から一字で書き抜きなさい。

□□□□□

② このことが、何によく似ているのか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人生 イ 登山
- ウ 読書 エ 旅

□□□□□

(4) —線③「ける」は、本来「けり」となるべき表現が変わっている。このような法則を何というか。書きなさい。

□□□□□

(5) —線④「をかしたとへなりかし」と思ったのは誰か。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 須賀直見 イ 旅人
- ウ 足が丈夫な人 エ 筆者

□□□□□

日記（紀行文）・随筆

日記（紀行文）の代表作には、『土佐日記』『更級日記』『おくのほそ道』などがある。随筆の代表作には、『枕草子』『方丈記』『徒然草』があり、三大随筆といわれる。日記を読むときには当時の時代背景を理解すること。旅の困難などを意識して読むとよい。随筆には日常生活を通して、筆者独自のものの見方や考え方が描かれているので、そこに着目するとよい。

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〈山梨〉

さしたる事なくて人のがり行くは、よからぬ事なり。用ありて行きたりとも、
これとしようこと 人のもとへ

その事果てなば、とく帰るべし。久しく居たる、いとむづかし。
終わつたら 早く 長い間 わずらわしい

人とむかひたれば、詞多く、身も草臥れ、心も閑ならず、万の事障りて時を
口教が 平静でなく あれこれと支障をきたして 時を過ごすのは

移す、互ひのため益なし。いとほしげに言はんもわろし。心づきなき事あらん
いやいやながら話すのも 気が進まないことがあるような時は

折は、なかなかそのよしをも言ひてん。同じ心にむかはまほしく思はん人の、
かえって わけ 言つてしまおう こちらも相手と同じ気持ちで対座したいと思うような人が

つれづれにて、「いましばし、今日は心閑に」など言はんは、この限りには
もつこはまらへく 言うような場合は

あらざるべし。阮籍が青き眼、誰もあるべきことなり。
ないだらう ③ げんせき たれ

そのことなきに人の来りて、のどかに物語りして帰りぬる、いとよし。又、
これという用事 のんびりと語つて帰つてしまふのは

文も、「久しく聞えさせねば」などばかり言ひおこせたる、いとうれし。
手紙 お手紙を差し上げませんので よこしたの

〔徒然草〕より

(1) 線①「むかひたれば」を現代仮名遣いに直して平仮名で書きなさい。

[]

(2) 線②「益なし」とあるが、どのようなことか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 申し訳ない イ 無駄である
- ウ 望んでいない エ 不愉快である

[]

(3) 線③「阮籍が青き眼、誰もあるべきことなり」とあるが、これは中国の故事に基づいた文であり、次の文章は、その故事を引用して筆者が述べたことについてまとめたものである。 [] に当てはまる言葉を二十五字程度で書きなさい。

「阮籍が青き眼」…中国の三国時代の人である阮籍が、客を喜んで迎える時は青い眼（真正面から見ると黒いひとみ）をしたという故事による。

↓【筆者が述べたいこと】 [] と思うことが、誰にでもあってよい。

25 []

(4) 本文の内容の説明として適切なものを次から全て選び、記号で答えなさい。

[]

- ア 用もない訪問や長居はわずらわしいが、誰とでもそうとは限らない。
- イ 人と話していると心身が疲れてしまうので、合間に休みを入れるとよい。
- ウ 話したくない気持ちであるときは、相手に理由を言ってしまう方がよい。
- エ 時間を気にして話すと相手も落ち着かないので、のんびりと話す方がよい。
- オ 長文の手紙を書けなかったことを、相手が謝ってくれるとうれしい。

2 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〔鹿兒島改〕

(ある男が) いつかたに火ありと聞きても、ありあふ調度しらべなんど繩なはにゆひつ
けて、井のうちへ入れつ。水に入れがたきものは袋ふくろやうのものへうち入れて、
かたはらさらずおきぬ。「火のかく遠きをいかでさはしたまふ。」といへば、「焼
自分のそばに離さず置いていた
けゆかば遠きも近くなりぬべし。」といふ。「風よければこなたへはきたらじ。」
といへば、「風かはりなばさはあらじ。」といふ。人みな笑ひぬ。

ある日いと遠方のなりしが、風とみに吹きいでて、またたくうちに焼けひろ
ごり、かの男のあたりも焼けうせぬ。火しづまりて、近きあたりのものら、「も
の食はんとしてもうつはものなし。」となげけば、かの男したりがほにて、「か
してまゐらせん。」とて、かの繩を引きたぐれば、はさみよ、くしよなどいふ
もの引きあげつ。また袋のうちより、うつはものなど出だしつ、「つねづね
人に笑はれずば、いかでかかるときはまれしつべき。」といひしを、「げにも。」
といひし人もありしとぞ。

〔花月草紙〕より

(1) 線部「まゐらせん」を現代仮名遣いに直して平仮名で書きなさい。

(2) 線①「ありあふ調度なんど」とは何を指すか。古文中から十四字で書
き抜きなさい。(句読点も字数に含める。)

(3) 線②「いかでかかるときはまれしつべき」とあるが、このときの男の
気持ちの説明したものととして、最も適切なものを次から一つ選び、記号で答
えなさい。

- ア 困っている人々を助けることができ誇らしい気持ち。
- イ 自分を笑った人々を助けることになって悔しい気持ち。
- ウ 今回もまた助けてもらうことになって情けない気持ち。
- エ 笑われていたのに今回助けてもらううれしい気持ち。

(4) 次は、本文について話し合っている先生と生徒の会話である。I は、
ふさわしい内容を考えて二十字以内の現代語で書きなさい。II は当ては
まる言葉を古文中から五字で書き抜きなさい。

先生「人々はなぜ男を笑ったのですか。」
生徒A「はい。男が、遠くの火事でも延焼してくるかもしれないと考えて、
身の回りの道具に被害が及ばないようにしていたことを I」と思っ
たからだと思います。」
先生「そうですね。しかし、実際に、ある日、火事が男たちの住んでいた
所まで延焼してきて、食事をしようにも器がないことを人々は嘆いて
いましたが、その時の男の様子はどうでしたか。」
生徒A「はい。器を貸そうとした時の II」という表情から、非常に得
意な様子だったのではないかと思います。」
